

つばたほくぶ  
**津幡北部地区**  
 (石川県津幡町)

- 計 画 期 間 平成 18 年度～平成 22 年度
- 面 積 282ha
- 交付対象事業費 2,236.7 百万円
- 町人口 37,520 人

**ポイント**

新旧住民が誇りを持って暮らせる、  
 安全・安心・快適なコミュニティづくり

**地区概要**

国道 8 号と 159 号の分岐点であり、交通の要衝となる地区である。金沢近郊のベッドタウンとして急速に市街化が進み、旧集落と新興住宅群が混在した居住環境を形成している。

**目 標**

- ・分断された地域の一体性の向上を目指し、新旧住民の交流・連携を促進するための拠点を形成する
- ・歴史的資源の活用と地域コミュニティの活性化により、地域への誇りを醸成する
- ・包括的な防災機能の強化による安全・安心の生活基盤と良好な居住環境を創出する

**指 標**

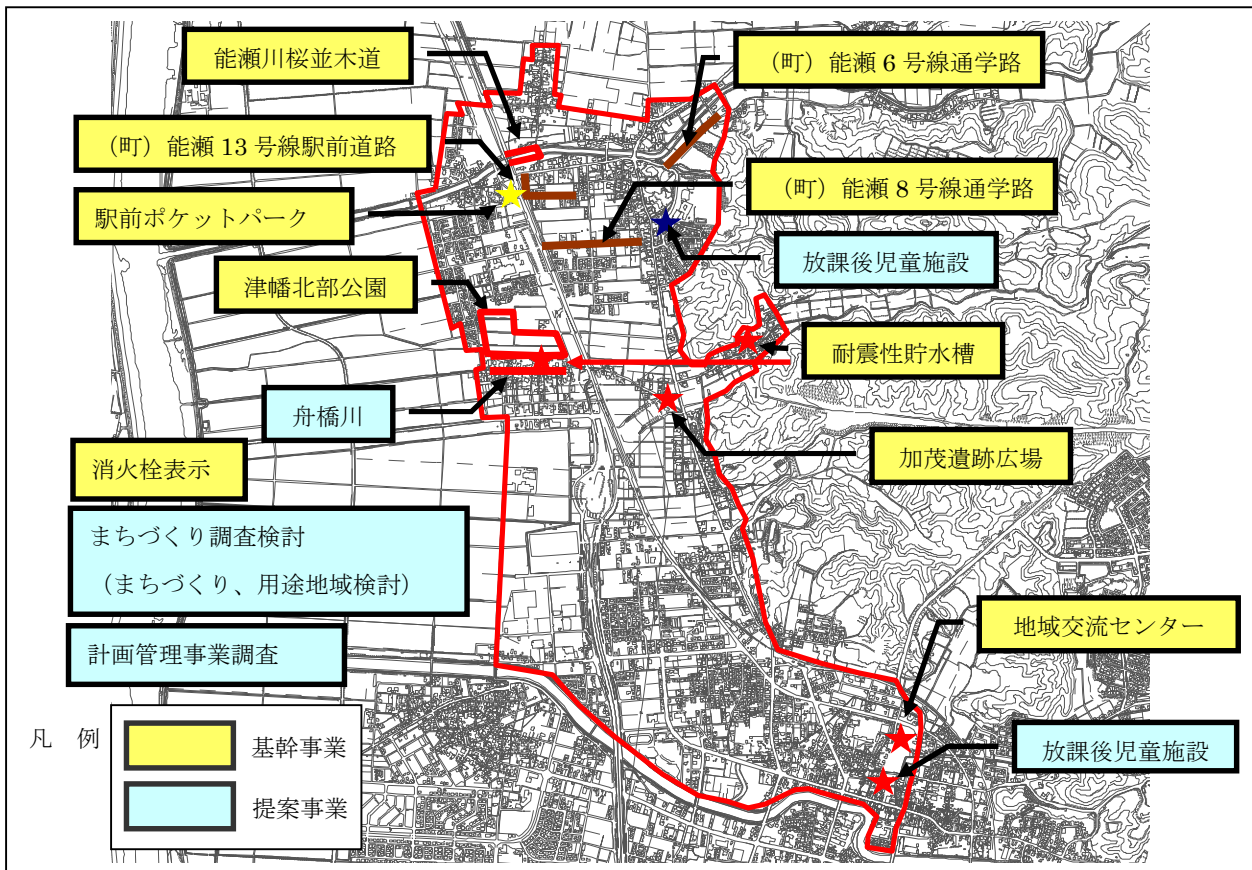
新旧住民の交流の交流拠点を整備し地域の活性化を狙う。また、安全、防災機能を高め住環境の改善を図る。地域資源を活かし「誇り」を醸成する。

交流施設の利用	20,516 人 (H16)	→	23,000 人 (H22)
「誇り」への満足度	2.95point (H17)	→	3.10point (H22)
地区内公園面積率	1.4% (H17)	→	2.0% (H22)
消防活動困難区域率	49.0% (H11)	→	46.1% (H22)

**事業内容**

基幹事業 (1,582.2 百万円) → 道路 (駅前、通学路整備 L=846m)、公園 (1 箇所 A=4.4ha)、耐震性貯水槽 (2 基)、広場整備 (A=0.2ha)、ポケットパーク整備 (A=164 m<sup>2</sup>)、桜並木道修景 (L=226m)、地域交流センター (1 箇所)、消火栓表示 (35 箇所)

提案事業 (654.5 百万円) → 河川改修 (L=389m)、放課後児童施設、まちづくり調査検討、計画管理推進事業

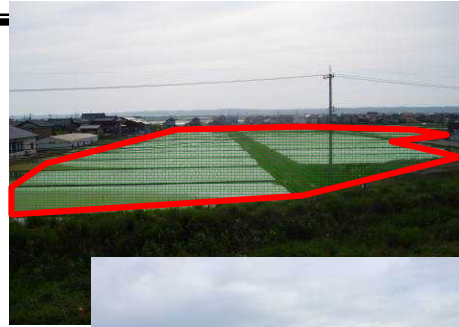


凡 例

- 基幹事業
- 提案事業

## 地区の現況と課題

津幡北部地区は、市街化が急速に進展してきたが、JR七尾線や国道159号などにより地域が分断され、コミュニティが不足してきている。これを解消し、新旧集落の交流促進及び地域一体性を目指すため、歩行者空間整備やネットワーク整備を行い、併せて地域の交流拠点として地区公園整備が望まれる。新旧集落および新旧市街地の一体性形成により地域への誇りを高め、防災機能強化による安心・安全なまちづくりが必要とされている。



交流拠点として整備された公園

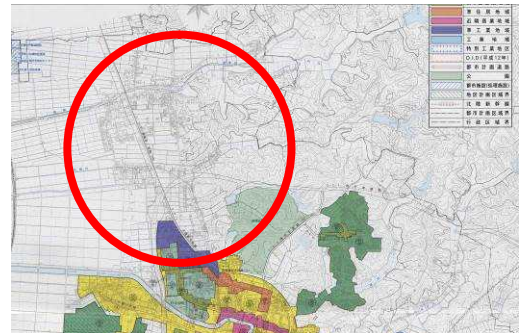
## 提案事業の特徴

### 事業活用調査

用途地域の検討や都市公園の都市計画決定を行う。都市計画規制により地域の良好な土地利用を図る。  
都市公園における地域住民の参加方法などを検討。

### 地域創造支援事業

準用河川改修により、安全で良好な住環境を形成する。



現在は大半が白地地域となっている津幡北部地区

## 計画策定プロセス

### まちづくり委員会

地区住民で結成される振興会より選出された委員で「津幡北部地区まちづくり委員会」を開催し、ワークショップ、視察、都市再生大学校の参加などで知識を深め計画を策定した。この委員会は事業が始まった平成18年度においても継続され、住民参加のまちづくりに重点を置いている。



津幡北部地区まちづくり委員会の様子

### 都市再生大学校

計画の策定時において、全国の大学生を募集した都市再生大学校を開校し当地区のまちを見て歩きアンケートを取りながら、まちづくりを研究した。本計画の中心となる都市公園計画を模型を使って表現し、まちづくりをみんなで考えた。



都市再生大学校では公園のデザインゲームが行われた